

理工資料解説 (蒸気機関車 69665号機) 【99歳：白寿のつぶやき①】

～ 熱くなると「熊本弁」も飛び出すバイ！ ～

ワシは、熊本博物館の屋外に展示してある「蒸気機関車 69665号機」じゃ。



今から50年近くも前、まだ博物館がこの地に移転してくる数年前から、ここに住んでおったんじゃ（というか…、引退後に上熊本駅からトレーラーに乗せられ、1974年5月に博物館建設予定地になっておったこの地までゆっくりと運ばれてきたんじゃがな）。



屋外展示場には、ワシのほかにも仲間がおってな…、大きくて重たそうな岩石や石をくり抜いて作った石風呂、文字が刻まれた貴重な石の塔などもあるんじゃよ。

時間があれば、ワシの仲間もじっくり見てもらえると嬉しいのう。



【上熊本駅から博物館建設予定地へ】

そう、そう、ワシは名前のとおり蒸気：「水の蒸気：水蒸気」の力を使って走る機関車じゃ！
体のそうにや大きかけん、屋外の展示場でも一番目立つとるじゃろ！

ワシの先輩（と、一方的に思っとるだけなんじゃが）、異国の「機関車トーマス」さんのような「顔」の部分に、緑色の番号札（英語では「ナンバープレート」って言うのかな？）が付いとるのがわかるかのお??こん「緑色」こそ、かつて（だいたい80年前から50年くらい前までの、およそ30年間）、ワシが熊本と大分の間を走とったこつば表す大切な証拠・目印なんじゃよ！走る場所（機関区）によって、プレートが色分けされとったんじゃが…、知らんかったろ？



つまり、「緑色の番号札（ナンバープレート）」を付けたワシは、熊本に「とても縁の深い（ゆかりのある）蒸気機関車」ということなんじゃよ！！

主に、荷物を運ぶために造られたワシらは、人々から、「キューロク」「クンロク」…とか言う愛称でも呼ばれとったなあ。ここで、もういっぺん緑色の番号札ば見てハイヨ！！

左から「6・9・6・6・5」…て、数字が書いてあるじゃろ。番号の中にある「96」っていう部分が愛称につながるところなんじゃな。同じ「96」の仲間が全部で770台造られとるばってん、ワシはその内の666番目に造られた「キューロク」なんじゃよ。この数字には、とてもおもしろか秘密（ひみつ・きまり）があるんじゃが、それは、また次に話そうかね。

さてさて、このワシは1923年（1月）生まれで、今年99歳になったんじゃ。来年には百歳になるって…、自分でも信じられんなあ。生まれてから50年間、つまり50歳のときまで走って引退したんじゃが、その間に走った距離は、何と…、地球63周分にもなったち！！すごかる！？ワシの自慢タイ！

今年の箱根駅伝、あたち（あなた方）は見なはったかな？「駅伝」じゃなかばってん、とても長か距離ば走る「マラソン」っていうのがあるじゃろ。およそ40km（正確には42.195km）を一人で走りきるとても苦しか陸上競技じゃ。北極と南極ば結んだ地球1周分の距離が4万kmて言うけん、地球1周はマラソン1000回（948回）分もの距離・長さになるんじゃな。マラソンランナーが毎日走ったとしても、3年近くかかる距離じゃ！その地球を63周分も走ったんじゃから、ワシもなかなかのもんじゃろ！！

ほんなら、今回はこのへんで…サラバじゃ！

（次回、番号札：ナンバープレートの「数字の秘密に迫る」）いつになるかわからんバイ！